

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年2月18日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670103920
法人名	社会福祉法人 陵風会
事業所名	グループホーム西谷山 (1F)
所在地	〒891-0116 鹿児島市上福元町5604番地 (電話) 099-260-1343
自己評価作成日	平成27年10月1日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成28年2月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

共同生活において明るい家庭的な雰囲気の中で、日常生活のお世話及び生活リハビリを行なうことにより、利用者がその有する能力に応じた生活ができるよう明るい笑顔の絶えない雰囲気作りを念頭において運営を行なっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

木のぬくもりが随所に感じられ、家庭的でゆったりとした雰囲気のグループホームである。
 利用者を楽しんでもらえるように毎月外食を兼ねた外出レクを取り入れ、ファミリーレストランや回転寿司、道の駅などに出かけて「食」を楽しんでもらっている。また、ホームの食事でも利用者の嗜好を聞いて献立を決めており「食事がおいしい」と利用者からの評価も得られている。
 協力医療機関との連携が図られ、緊急時の対応など医療連携が整って本人・家族・職員の安心に繋がっている。
 管理者や職員は利用者のことを第一に考え、利用者が日々楽しく、笑顔で過ごして欲しいとの思いを持ち日々支援している。
 ホーム内の雰囲気も明るく職員の見守りと連携で利用者が安全で自由に生活している様子が伺える。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	地域に根ざした理念を掲げ、朝礼時に全員で唱和することで、理念を共有し利用者に接することの大切さを確認している。	「家庭的な雰囲気の中であなたの思いを大切に楽しく過ごせるようにお手伝いします」という理念を作成している。毎朝唱和して意識の共有を図っている。理念はリビングとスタッフルームに掲示している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会へ加入しており、地域の行事（十五夜等）に参加し、交流を図っている。	町内会に加入しており、町内会行事の情報を得て見学に出かけている。また、散歩時にあいさつを交わすなど交流に努めている。中学生の職場体験実習、高校生の実習、ボランティアの受け入れなども行っている	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	中学生の職場体験学習の受け入れや高校生の実習などを積極的に受け入れている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの内容や現状報告、外部評価についての説明や結果報告を行ない、行政や地域の方々の意見やアドバイスを頂いて、サービスの向上に活かしている。	民生委員、家族、包括職員等の参加で2カ月に1回定期的に開催している。ときには協力医療機関の看護師にも参加してもらっている。ホームの状況報告、行事報告等を行って地域の困難事例等を話し合っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>市町村とは常に連携を図り、現状報告や相談・助言・指導を頂いている。</p>	<p>日頃より連携を図り、協力関係を築くように努めている。また、生活保護担当者とも連携を図っている。毎年介護相談員の受け入れも行っている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束マニュアルがあり、定期的に勉強会等を行なうことで、身体拘束の有無の確認と日々のケアの中で勉強している。</p>	<p>身体拘束廃止委員会を設置して年2回定期的な勉強会を行い、職員の共通認識を図っている。日中は施錠などせずに職員の見守りと連携で安全で自由な生活を支援している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>定期的に勉強会を設けている。入浴介助や更衣介助時に身体確認を行ない、見過ごされることがないように注意を払い、職員全員で防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>権利擁護については学ぶ機会を設けている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時に運営規程や重要事項の説明を行ない確認を頂き、契約の締結・改定等の際は、文書で説明を行ない、疑問点や不安については、十分な補足と説明を行ない、理解・納得を頂いている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>第三者委員などに相談できるように説明し、玄関受付に意見箱を設置している。</p>	<p>日常の面会時や電話連絡時、年1回の家族交流会時に家族から意見・要望を聞き出すように努めている。出された意見・要望については職員間で話し合っって運営に反映させている。第三者委員も設置してホーム内に掲示している。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員会議・朝礼・カンファレンス等にて意見を交換し、問題点など職員全員で話し、改善運営に反映している。</p>	<p>朝夕の申し送りや職員会議で情報の共有と職員の意見・提案などを話し合う機会としている。また、法人で無記名のアンケートも実施して職員が意見を表しやすくしている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>和気あいあいとした働きやすい雰囲気努め、また職員の資格取得の支援を行なっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修会等にも積極的に参加し、サービス及び知識の向上に取り組んでいる。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>定期的に勉強会を設けている。入浴介助や更衣介助時に身体確認を行ない、見過ごされることがないように注意を払い、職員全員で防止に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者本人を始め、ご家族・関係事業者等から生活歴等詳細に情報を集めている。また、本人様とゆっくり話す時間を作り、安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にご家族の思いを傾聴するのはもちろん、面会時にも日頃の様子を伝え、相談しながら意見や要望を言えるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族が必要としているサービスが難しいケースも相談を受け、必要に応じて各関係機関に相談し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる事、出来そうなことを一緒に行ない、共に支え合う関係を築く努力をしている。また、穏やかな生活ができるように声かけを行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会・家族会等で日頃の生活等様々な出来事を伝え、家族の方と一緒に情報共有し、支えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の方の都合にも配慮しつつ、協力を頂き外出・外泊等継続できるように支援している。また、友人・知人の訪問時にはゆっくりして頂けるように支援に努めている。	家族の協力をもらいながら入居前からの美容室や買い物、外泊、お墓参りなど共に支援している。また、友人知人の来訪も多く、居室でゆっくりと過ごしてもらえるように配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や関係を把握し、利用者同士が楽しく会話でき、交流できるように手伝い、支え合えるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	次のサービス事業所に情報を提供したり、退居後もお見舞いや面会などに出かけ、必要に応じて相談や支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを踏まえたケアを行なっている。また、困難な場合でも仕草等から本人の意向を考え、ケアに取り入れられるようにしている。	日常の会話で意思疎通を図り思いや意向を引き出している。困難な利用者からは表情や言動などから本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの情報収集し、分析を行ないカンファレンス等で全員が把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の生活パターンや思いを尊重し現状を観察し、職員間で支援が柔軟に行われるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の思いや意向に添うケアの方法を職員や関係者と話し合い、介護計画に反映している。また、状態に変化がある場合は新たに本人と家族と話し合い、見直しを行なっている。	利用者・家族の思いや希望、職員の意見などを反映した本人本位の介護計画を作成している。定期的カンファレンスを行って個別性のある本人らしい生活の実現に向けた計画作成に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	体調の変化、日々の様子を個別に記入し、食事・水分摂取量や排泄日数等の状態変化にその都度対応している。職員間で情報共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの状態・状況に応じて常に職員・家族を含め、話し合いをし柔軟なサービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問美容サービスを利用している。ボランティアの皆様により踊りなどを楽しませて頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と密に連絡し、状態の変化等に対応している。本人や家族の要望がある時は、家族の協力のもと希望する医療機関の受診をお願いしている。	本人・家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。家族が連れて行く際はホームより情報提供書を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医と密に連携を図り、日々の健康管理や定期健診、必要時の受診など適切に対応している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時は、安心して治療できるようにお見舞いや家族相談にも、病院関係者とも情報交換し、早期退院ができるように努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>利用者・家族の気持ちを汲み取り、主治医を含め状況の変化に応じて話し合う機会を設けている。</p>	<p>重度化や終末期におけるホームの方針は入居時に家族に口頭で説明し、同意を得ている。入居後は身体状況に伴い主治医の判断の下、家族と方向性を共有してホームで出来る最大限の支援に取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時のマニュアルがあり、いつでも見られるように掲示してある。緊急時や事故発生時に備えて応急手当などの研修を受けている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>災害時のマニュアルを作成し、いつでも見られるように掲示してある。また、定期的に避難訓練等を行ない、非常食の備蓄もあり、入居者・地域の方々の防災の助けとなれるように努めている。</p>	<p>年2回昼夜間想定避難訓練を行っている。ときには、運営推進委員にも参加をしてもらい、地域との協力体制を築いている。スプリンクラーは設置済みで備蓄も確保されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格や個性に配慮した声かけや対応を行なっている。	利用者の人格を尊重した声かけや対応に心がけている。また、定期的な勉強会で職員の資質の向上に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の言葉や行動により、本人の希望、関心等を見極め、自己決定ができるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースに合わせて生活ができるように、一人ひとりの体調に配慮しながら、その日の本人の気持ちを尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	身だしなみの自己決定ができる方に対しては、衣類を選んで頂き、出来な方に対しては、家族の方に話を聴き、職員が選んでいる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食や嗜好を活かして食事作りを心掛けている。また、食事の下ごしらえのできる方に関しては一緒に準備するようにしている。	利用者の嗜好に配慮した献立で「食事がおいしい」と利用者の評価も得られている。また、毎月、外食または宅配のお寿司などで「食」が楽しめるように趣向を凝らしている。気候のいい時期は弁当持参で遠足にも出かけている	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量・体重を一人ひとり記録し、職員間で情報共有している。一人ひとりの状態に応じて飲み物を変え、水補に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後実施している。夜は預かり戦場保管している。また、必要に応じて、かかりつけ歯科医師の訪問を依頼し治療できるように支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの状態にあった方法を検討しPWCやトイレを安全し使用できるようにしている。また、排泄パターンを把握し、声かけ・誘導を行なっている。	日中は時間を把握し、トイレ誘導を行ってトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫や水分量等に気をつけ、少しでも自然排便ができるように取り組んでいる。必要に応じて主治医へ相談し、快適に生活できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴は週3回行っている。入浴ができないときは、清拭を行なうなどして生活保持に努めている。	基本的には週3回を目安としているが個々の希望や身体状況に応じて柔軟に支援している。ゆず湯や菖蒲湯などで季節を感じてもらうこともある。家族が温泉に連れて行く利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に気配りし、ゆっくりと休める環境づくりに努めている。気持ちよく休めるように、室温・寝具調整を行なっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用・用法や用量について理解し、薬の変更があった場合は、申し送りやお薬情報等で確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりにあった役割などが何であるかを把握し、生きがいにつながるように支援している。一人ひとりの力を発揮できるような場面作りを心がけている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への散歩・外気浴・月1回の戸外レクリエーション（外食）へも出かけている。	日常的には庭で外気浴をしたり、近隣の散歩に出かけている。また、毎月、利用者の楽しみとなっている外食に出かけたり、地域行事見学や花見、弁当持参で近くの公園など外出の機会を頻回に設けている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>希望される方に対しては、お金を所持して頂き、それ以外の方は、施設で預かり、いつでも使えるように支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>本人が希望さてる場合は、電話や手紙の支援を行なっている。また、ご家族の方からの電話にもゆっくりと話することができるように支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関ホールには、季節の花を飾るなど清潔さを保つように毎日掃除している。また、湿度・温度・換気など環境にも配慮している。壁飾り等を一緒に作り、ホーム内においても季節を感じられるように工夫している。</p>	<p>共用空間は広く明るく、食事のダイニングとソファとテレビの置かれたくつろぎの空間が分かれており、メリハリのある生活が送れるように配慮されている。また、行事の際の写真や季節の手作り作品が飾られて家庭的な落ち着いた雰囲気となっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共用空間の広さは限られているが、利用者が利用しやすい場所を考慮し、ソファやイスを設置している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人やご家族と相談し、使い慣れた家具や物品を可能な限り持参して頂き、入居後も本人が居心地良く過ごせるように工夫している。</p>	<p>テレビ、ラジカセ、仏壇、家族の写真、お気に入りの飾り物など馴染みの物品が持ち込まれ居心地良く過ごせるように配慮されている。各居室に洗面台も設置され整容の自立に繋がっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>全バリアフリーであり、廊下やふろ場等の動線に合わせた手すり等が工夫されている。また、利用者の特性に合わせて戸惑いや混乱が生じないように目印や表札などを手作りし、設置している。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない